

成し、チームとして教えることが必要と考えるが、小学校から高校までの12年間を見通した主権者教育をどのように推進しようとしているのか、所見を伺いたい。

A
答 弁 「主権者としての意識や態度の醸成」に向けた具体的な取組みを推進するに際し、プロジェクト会議を設置し、京都府の指導指針の作成に既に着手し、児童生徒の社会参画意識を向上させるとともに、身近な地域の課題から国政、国際問題へと視野を広げ、有権者としての自覚を高める取組へと充実させていきたい。又、市町(組合)教育委員会と連携し、政治的中立性の確保を基本に置きながら着実に推進していく。

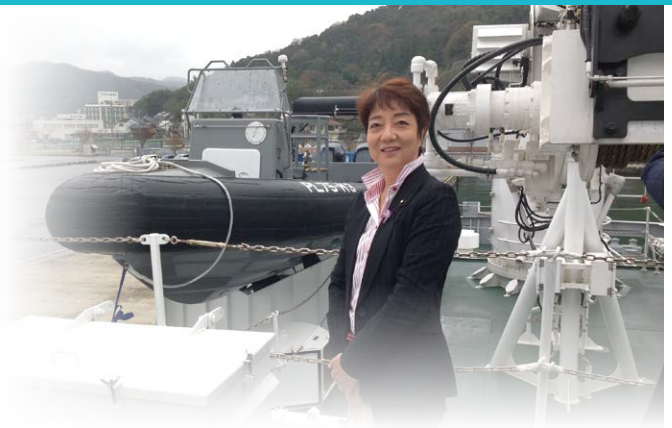
3 薬物乱用防止対策の強化について

Q
田 中 先般、京都市内の小学生が大麻を吸引した事件が発覚したが、大麻などの薬物乱用から子どもを守るためには、保護者である親の意識、家庭での見守り、気づきが何よりも重要と考える。若年層がスマートフォンを介して薬物乱用に及んでいる事態を踏まえ、岡山県教委で実施されている小中学生のスマートフォン使用制限といった、薬物を遠ざける取組など、子ども達の薬物乱用根絶に向けた対策を学校のみならず、親や家庭、地域社会が一体となって、早急に取り組む必要があると考えるがどうか、所見を伺いたい。

A
答 弁 10月9日に緊急府立校長会議を開催し、根絶に向けてより踏み込んだ生徒指導や警察との連携強化を指示するとともに、保護者対象の薬物乱用防止教室の実施や緊急アピールの採択を行った。又、スマートフォン利用に関して、深刻なトラブルや被害を防ぎ健全な利用ができるよう1日の使用時間や夜間の使用制限、個人情報の取扱いなど、親子でルールをつくり、自ら宣言することを提唱している。

4 京都からの伝統文化の情報発信について

Q
田 中 文化庁等の移転に関する話が新たな展開を迎える中、京都こそが文化の発信拠点として最も相応しく、京都を文化行政の中心になすべきと考えるが、文化の発信力は、ふるさと京都を愛し、誇りと思えるような情報発信を子ども達の日線で展開することで、将来の京都を担う人材が育ち、一層高まるものとする。文化庁等移転の機運を加速させる観点からも、京都から茶



道や華道といった伝統文化を情報発信することが、今後さらに重要性を増すものとするが、知事の所見を伺いたい。

A
答 弁 日本文化の真髄や日本人の精神性というものの世界に向けて更に発信していくためにも、「文化の首都 京都」というものを実現していきたいと思っている。京都への文化庁移転もその一環という形で事業展開をしている。その点からいえば、次世代育成は最重要課題であって、日本文化を若いうちからしっかり理解し、身につけ、誇りに思ってもらえる教育を進めることは、私たちの責務と考える。京都の各分野で活躍する文化人や芸術家で構成する協議会「文化の知恵袋」を通じて、質の高い伝統文化芸術を体験・実践する機会を提供するとともに、子どもたちが世界の人々と交流し、しっかりと発信できる担い手となるように取り組みを進めていきたい。

5 景観を守るための連携強化について

要望
田 中 宇治市では、お茶の京都の入り口となる太閤堤跡の歴史公園からの景観が重要であるほか、平成6年に古都京都の文化財として世界遺産に登録された平等院や宇治上神社を守っていく周辺環境の保全に加え、バッファゾーンも含めた、一体的な取組が必要であり、府・市・国が枠を超えて取組むべきと考える。お茶の京都ターゲットイヤーにおいて、宇治市の美しい景観がしっかり守られるように最大限の支援を要望する。

12月府議会 可決された意見書

- 第1号 「関西メガリージョン」の早期実現を求める意見書
- 第2号 文化庁等政府関係機関の京都移転を求める意見書
- 第3号 ブラッドパッチ療法の保険適用及び脳脊髄液減少症の治療推進を求める意見書
- 第4号 主権者教育の確立と投票機会の拡充を求める意見書
- 第5号 地方大学の機能強化を求める意見書
- 第6号 建設業従事者のアスベスト被害者の早期救済・解決を求める意見書